

# 放送の全道大会 オンラインで挑む

## Nコン中止で企画 アナウンス、朗読に14高校

新型コロナウイルスの影響で大会が中止となったことを受けリモートで行われた放送コンテスト。生徒は自宅や学校から接続し、審査員は画面を見て審査した



道内の高校3年生が参加する放送コンテストが2日、オンラインで開かれた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、目標としてきた全国大会が中止になったことから、札幌のNPO法人「ことばのひろば五億の鈴の音」が主催し、実現した。アナウンス、朗読の2

部門に、予選を勝ち抜いた14校の計24人が参加。高校生活の集大成を披露した。全国の放送局員らが目指すNHK杯全国高校放送コンテスト（Nコン）が中止されたことを受け、同法人が道内のオリジナル大会として企画した。同法人代表でフリーアナウンサーの五

十嵐いおりさんは「『放送の甲子園』と言えるほどの大会に向け、頑張ってきた生徒たちの発表の場をつくりたかった」と話す。

24人は学校や自宅からオンライン会議システム「Zoom（ズーム）」で参加。原稿やストップウォッチを手に、伝わりやすい発声や間合いの取り方など、日頃の練習の成果を披露し、法人理事や道高文連放送専門部の教員らが、札幌静修高で審査した。アナウンス部門では札幌手稲高の藤田華穂さん（18）、朗読部門では札幌日大高の新矢萌香さん（17）が最優秀賞に輝いた。

藤田さんは、Nコンが中止になった時は1週間ほど立ち直れなかったと打ち明け、「高校で打ち込んできた全てを発揮する場をもらった。練習を通し、声の高低、声色など相手に『伝わる』アナウンスに、最後まで取り組めた」。新矢さんは「切磋琢磨してきた他校の子とも画面越しに会えて忘れられない1日になった」と話した。

（岩崎あんり）